

旅枕松平長七郎 (六卷)

新 興 映 畫

原作並脚色者 八尋不二

監督者 松田定次

撮影者 花房章

主演者 市川玉太郎

紹介者 第四百十三號

達筆家八尋不二が無雑作に書き上げたものらしい。黄門漫遊記等と同轍の内容を持つ講談的映畫で、江戸から吉田迄の道中、この間例の如く酷政に泣く農民の救護。悪領主の制裁。さては女道中師との経緯などが、たゞ組立てられてある丈であるから、淡泊さ云へば、これはまさに淡泊であるが、通俗的娯樂興味は客筋に依つては十分に歓迎されやうと云ふもの。玉太郎の長七郎は未だ、幼稚なお芝居である。望月の禮子がエロ的色彩を漂はして仲々楽しませる。監督、撮影共に頗る無氣力。現像の拙劣さを特に注意したい。

池田重近